

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	メディア論		
英文授業科目名	Media Theories		
開講年度	2008年度	開講年次	3年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間・夜間主コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	専門科目-学科専門科目-		
開講学科・専攻	システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	原 和之		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ
kzykhar@netscape.net	http://sinkdeep.main.jp

【主題および達成目標】
「メディアとその技術的基盤は、人間にとって単なる道具ではなく、そもそも人間のあり方に深い影響を与えている」、とする考え方があります。授業では、この考え方がそもそも登場するに至った背景とその展開を概説します。最終的には、こうした考え方に関する文献・資料を広く調査し、自分の問題を立て、それを一定のフォーマットで論述する仕方を身につけることが目標となります。

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
西洋史に関する知識がある程度あることが望ましい。

【教科書等】
上記ホームページに参考文献の一覧を示す。

【授業内容とその進め方】

講義形式で行う。メディア史上の基本的知識を習得すること、およびメディア史上のさまざまな出来事を位置づけ意味づけるさまざまな仕方を学ぶこと、この二つが主要な作業となる。授業で取り上げるトピックは以下の通り。

I. コミュニケーション

- 1 コミュニケーション・メディア・リアル ---メディア論の基本構制---
- 2 コミュニケーションの理想とその動揺 ---言語をめぐる転回---

II. メディア

- 3 「文字」の優位の成立
- 4 メディア史における二つの不連続面---ゲーテンベルクの銀河系---
- 5 メディアの連続と不連続：絵画から写真へ
- 6 メディア論の起源：ベンヤミンの写真論
- 7 メディア論と「参与」する人間---「ホット」から「『クール』」へ
- 8 「参与」のさまざまな形---ハイパーテキストの系譜
- 9 時間と記憶 メディアとしてのコンピュータ

III. リアル

- 10 リアルの再編 貨幣 = 言語平行論
- 11 リアルの変質 戦争とメディア
- 12 リアルの基層 「他者の発明」

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

ブックリポート（3割）および論述式の期末試験（7割）

ブックリポート：指定された参考文献表のなかから三冊の本を読んで三点のリポート（各800字）を期限までに提出すること。ブックリポートの趣旨は、この授業を受ける上で必須となる、関連文献を読む作業を評価の対象に組み込むことによって、この作業へのモチベーションを高めることにある。この趣旨からして、ブックリポートの内容は、その文献を自分で読んで考えたということが（授業の議論との関連を指摘したり、独自の着眼点を示すなどして）分かるようにしたものでなくてはならない。

期末試験：論述の評価のポイントは二つ。（1）提示された問題に対して具体的なメディアの歴史・事象を適切に引用・参照しているか。（2）メディアと人間の関係について、筋道だった議論が展開できているか。（1）が不十分なものが多いのでこの点を注意してほしい。

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、メールで事前にアポイントを取ること。

電気通信大学 平成20年度シラバス

【学生へのメッセージ】
なし

【その他】
なし